

# 久乗おりん



優しい響きが、心をいやす。



## 厳正な審査を経て

富山県内外の有識者で構成する「富山県推奨とやまブランド」育成・認定委員会が、「高い品質と信頼性・安全性」、「オリジナリティ」、「富山らしさ」、「市場性」、「将来性」の5つの基準で品目を評価し、厳正な審査を経て、「富山県推奨とやまブランド」の認定品を決定しています。

## 富山県の極上の産品

「富山県推奨とやまブランド」は、魅力ある富山県産品の中でも、とくに自信を持って誇れる極上の産品です。豊かな自然と歴史、そこで培われた人々の知恵や文化を「とやまブランド」の魅力と結びつけ、「富山県」の地域イメージとして国内外に発信しています。

富山県推奨とやまブランド  
「久乗おりん」認定事業者

株式会社山口久乗  
富山県高岡市内免2丁目8-50  
TEL.0766-22-0993  
<https://www.kyujo-orin.com>



人と風土に、ストーリーがある  
とやまブランド物語 VOL.20

富山県知事政策局 広報課  
TEL.076-444-3134  
<https://www.toyama-brand.jp/>



# 祈りの思いを

## 音に託して。

### 「工芸都市高岡を象徴する音風景」

あいの風とやま鉄道高岡駅。列車の出発を告げるアナウンスとともに、柔らかな音色の発車メロディーがホームに流れる。

人工的な電子音とは違う、心地よいゆらぎを持った音。優雅な和の旋律が構内のざわめきと溶けあい、重なり

あって、人々が忙しげに行きかうホームにひとときの安らぎを届けている。

この発車メロディーは、久乗おりん<sup>くりまおりん</sup>によって演奏された曲「越の高岡」。JR北陸本線の時代から乗降客に愛されてきたおりんの音色は、高岡の豊かな歴史と文化を誇るように響きわたる。

久乗おりんの発車音はこのほか、JRや高岡市と射水市

を結ぶ万葉線の高岡駅、あいの風とやま鉄道の西高岡、高岡やぶなみ、福岡の各駅、北陸新幹線新高岡駅でも採用されている。また、地元の市立小中学校では、始業や終業を告げるチャイムとしても用いられている。

久乗おりんが奏でる音色は、400年の歴史を持つ工芸都市高岡を象徴する音風景となっている。

### 「伝統から生まれたおりんの音色」

久乗おりんは、高岡市の仏具メーカー山口久乗のプロダクト。明治40年創業の同社は一世紀以上にわたり、さまざま

まな仏具の企画と制作、卸売に携わってきた。

日本を代表する銅器産地である高岡では、香炉や花立燭台といった金物仏具の分野でも全国一の生産量を誇る。

国の伝統的工芸品、高岡銅器の技法でつくられた金物仏具は、国内シェアの9割を占める。仏壇の中に置かれる金物仏具のほとんどが、高岡

で製造されているといっても過言ではない。

仏具のおりんもそうした金物仏具のひとつで、祈りの思いを音に託して仏前で打ち鳴らすお椀型の鳴り物だ。

「おりんの形状や鳴らし方には宗派によって多少の違いはありますが、澄んだ音色と長い余韻を持つその音は、心の平安を願う人々の暮らしと信仰に、長く寄り添ってきました」

そう話しながら、山口久乗の社長、山口康多郎<sup>山口こうたろう</sup>さんは、手にしたおりんをりん棒で叩いて鳴らしてみせる。

チーンという立ち上がりの音に続いて、ウワンウワンといううなりが揺れながら広ががり、やがてゆつくり消えていく。水面に描かれる波紋にも似た不思議な音の広がり。引き込まれると、心が研ぎ澄まされていくような感覚を覚える。



木の葉の  
そよぎにも似た  
ゆらぎの音。

人の心をいやし、安らげるはたらきを持つおりんの音色。



高岡駅のコンコースには、発車音の演奏にも用いられた「音曼茶羅【おとまんだら】」が置かれている。

# 音と形で

## 暮らしをデザインする。

### 音色そのものに 見出した価値

久乗おりん誕生の背景には、現代仏具への挑戦があった。1995年、阪神・淡路大震災の直後から、仏具業界では伝統的な仏具の意匠を見直すうとする動きが始まっていた。高い装飾性を持つ一方で、不安定で、災害時には人を傷つける恐れもあった形状から、コンパクトでシンプルな形状へ。山口久乗は試行錯誤を繰り返し、現代空間にも調和するモダンなデザインの仏具の開発に成功した。

同社の現代仏具は、伝統を重んじてきた仏具の世界に新風を

吹き込み、仏具の新たなスタンダードとなった。

「ちよūdōその頃から、仏具のおりんにも新たな可能性を見出せないかと模索を続け、音色そのものを価値とするおりん、久乗おりんが生まれました」

山口さんは、開発当時を振り返る。

「信仰と深く結びついてきたおりんですが、現代人には、仏事に限らず、



山口久乗社長の山口康多郎さん



惑星のような姿のリンプラネット。神秘的な響きが無限の宇宙をイメージさせる。



おきあがりこぼしのような愛らしい姿を持つまわりん。都会的な空間にもよく似合う。

気持ち落ち着かせたい、雑念を払って集中したいと思う時があります。おりんの深遠な音色は、現代人のそうしたニーズにマッチすると思ったのです」

久乗おりんの音の解析を専門家に依頼したところ、せせらぎや木の葉のそよぎといった自然の音と同様に、人が心地よさを感じる「1/fのゆらぎ」の波形を持つことがわかった。

いやしの音色を持つおりんを、現代の生活にうるおいや安らぎをもたらす音具や楽器として世に出したい——山口久乗は、外部デザイナーと共同で、おりんを現代の生活に溶け込む新しい音のインテリア「優凜シリーズ」として商品化した。

外見はもちろん、音の響きもインテリアとして楽しみ、

生活をより上質で豊かなものにデザインするという発想だ。身近に置いて、自分を見つめ直したいとき、何かを願うとき、心のおもむくときに鳴らす。「優凜」の音色が気持ちを整え、愛らしいデザインが日常にアクセントを添える。生活ノイズに囲まれた場にあっても、おりんの音色はその場を一瞬にして浄化してくれる。



多彩な表情を持つ優凜シリーズ。東京インターナショナルギフトショー「アクティブデザイン&クラフト・アワードコンテスト(2010)」で大賞を受賞。



東大寺大仏殿で行われた久乗編鐘による奉納演奏。  
(2006年と2019年の2回開催)



心地良い余韻を永く保つ工夫を施したアストロリン。東京  
インターナショナルギフトショーLIFE×DESIGNアワード  
(2018)で「ベスト匠の技賞」を受賞。

## 「音づくりは 職人の手仕事」

久乗おりんは、鑄造、切削、研磨、着色、彫金といった工程を経てつくられる。よい音を出すには、おりんの形状や合金材料の割合、切削の加減など、長年の経験で培ってきたノウハウが重要となる。

鑄造では、外型とそれより一回り小さな中子型を組み合わせた鑄型に、高温に溶かした銅合金を流し込んで、椀型のおりんの形をつくる。

鑄型のサイズによっておおよその音の高さは決まるが、音づくりにとってより重要となるのが切削だ。鑄型から取り出したおりんの鑄肌を削って形を整えると同時に、微妙な音程を調整する。削り方に

独自の工夫を凝らすことによつて、おりんの音には独特のゆらぎが生まれる。

さらに、研磨やメッキによつて光沢を出し、着色や彫金、螺鈿といった装飾を施すなど、さまざまな匠の技によつて美しいデザインを仕上げていく。各工程を、専門の職人が分業で仕上げるのが、高岡の伝統工芸のスタイル。優れた職人技をコーディネートし、商品づくりをプロデュースするのが、フェアレスメーカーである山口久乗の役割だ。

「うちは自社工場を持たないメーカーですが、ありがたいことに高岡には、繊細で丁寧な仕事をしてくれる数多くの職人がいます。また、高岡の地場産業であるアルミも、おりんをモダンに装飾する素材と

# ものづくりを支える

## 工芸のまち高岡。

して活かすことができます。いわば高岡の町全体が工場。組み合わせしだいで、前例のないことにも柔軟にチャレンジできるのが高岡の良さです」

## 「おりんの音色を より多彩に」

山口久乗では、「久乗おりん」のブランドで、日常のさま

ざまなシーンで楽しめる多彩な商品を提案している。誰でもよい音が鳴らせるポジションを研究し、60度に傾けたおりんを台座に載せた「アストロリン」。生まれ年の干支の音を、御守りの音として身近に置くことのできる「ころりん」と「おまもりん」。惑星のような形の「リンプラネット」は、書斎などに置く知的なオブジェとしても面白い。



おりんの形をつくる鑄造



形を整え音程を調整する切削



美しい質感を生み出す研磨

山口久乗はまた、久乗おりんの響きをより多くの人々に届けようと、音楽や舞台芸術とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

久乗編鐘は、12音階に調律したおりんを鍵盤のように並べた楽器。雅楽や能楽、ジャズといった多彩なジャンルのコンサートで用いられ、個性ある音色で演奏を彩っている。

また、奈良の東大寺大仏殿で行われた奉納演奏では、幻想的な響きで聴衆を魅了し、古代へのロマンをかきたてている。

「久乗おりんを通して、音という新しい市場を切りひらくことができました。これからも、手にした人の心に響くものづくりに努め、おりんの魅力をもっと多くの人に伝えていきたいと思います」(山口さん)



### message

#### 生活と共にある究極の音へ

すずき はじめ  
鈴木 創さん 日本音響研究所所長

古来よりご先祖様や仏様などを思い偲ふ際の合図として、おりんの音は人々の気持ちを静め、落ち着かせる効果を発揮してきました。職人の神業ともいえる感覚で創り上げた音色を科学的に分析したところ、そこには究極の癒やしの音といわれる「1/fのゆらぎ」が見出されました。仏具の枠を超えた可能性を模索していた山口久乗は、おりんを日常の生活の場へと引き出し、究極の音を手元に置けるように素晴らしい挑戦を続けられています。



繊細な装飾でおりんに豊かな表情を描く



小さな部品を組み合わせ個性的な造形を仕上げる

### 【関連施設】



雨晴海岸は、源義経の雨宿り伝説が残る景勝地。海辺近くに建つ道の駅からは、海に浮かぶ義経岩や女岩、富山湾越しの立山連峰といった美しい風景が楽しめる。展望デッキには山口久乗が寄贈した「りん鐘」が設置され、雄大な景観にたおやかな音色を響かせている。

#### 道の駅「雨晴」

高岡市太田24番地74  
JR氷見線雨晴駅下車 徒歩約5分  
0766-53-5661  
9:00~19:00(要HP確認)  
(展望デッキは24時間開放)

年中無休  
https://michinoeki-amaharashi.jp/